

第6学年 総合的な学習の時間指導案

1. 単元名「つなげよう！夢へのかけ橋を！」

2. こんな子どもだから

- 本学年の子どもたちは、国語科の学習において、〇〇の町がバリアフリーやユニバーサルデザイン等を大切にしたりやさしい町になっているかということ、地域を見つめてきた。その際、地域の‘人もの・こと’に目を向け、〇〇をやさしい町にしようという願いをもった。自分なりに課題を見つけ、その解決に向けてどのような方法があるか考えながら、進んで活動することができるようになってきた。【主体的・創造的な態度】
- 子どもたちは、課題が見つかり自分なりに計画を立てて追究する姿が見られ、自分が必要な情報を得るために、どのような方法で取材し、どんな人とどのようにかかわっていかばよいかも考えることができるようになってきている。【問題解決にあたっての学び方】
- 地域や自分たちを支えてくれている人々の生き方や考え方にふれた経験をもつ子どもは少ない。そして、どんな思いや願いをもって自分たちにかかわってくれているのかを受け止めて、主体的に地域の人にかかわり、地域の活動に参加している子どもの姿はほとんど見られない。進学に期待を膨らませ、将来の自分の姿を思い描き始めている子どもたちにとって、あらためて地域の人とかかわり、今、自分にできることは何か、何をしなければならないのかを見つけ、実際に取り組んでいくことは、有用感・有能感を高めていく上で意義があると考えられる。【自己の生き方への自覚】

3. こんな教材で

- ① **本質性**
日頃から、子どもたちや学校、地域に思いや願いをもってかかわってくださっている地域の人をGTとすることで、職業や勤労に目を向けながら、前向きに歩んでいこうとする態度を育むことができると考える。
- ② **課題性**
共通課題（課題1・2）から自分なりの課題を設定した子どもたちは、様々な方法を駆使して課題解決に向かって個々に活動していく。その途中で繰り返される成功体験や失敗体験は個々の学びであり、有用感・有能感を実感できる場となると考える。
- ③ **発展性**
こだわりや喜び、やりがいをもって生きることの素晴らしさを子どもたちに味わわせたいという地域の人の思いを「受け」、その「受けた」ことを大切にして地域に「返す」という活動を構成することは、学校と地域の双方向性のある関係づくりを行う上で価値ある教材となると考える。

4. こんな支援で

- 「受ける」段階
 - 夢を実現した人と出会うことで、夢に対するイメージを広げることができるようにする。
 - 出会った人の生き様に感動したり、共感したりすることで、自分の課題（課題1）を設定することができるようにする。
 - 協働体験や継続観察を大切にすることで、追究する「人」の思いや願いに触れることができるようにする。
 - 「夢の実現」に向けての取組には、まだ課題が残っているという新たな視点に気付くことで、課題2を設定することができるようにする。
- 「返す」段階
 - 学んだことを自分の生活にどのように生かしていくかを考えることで、「受けた」ことを「返す」という意識をもつことができるようにする。
 - 追究した「人」から、活動を評価していただくことで、有用感・有能感を味わうことができるようにする。

5. こんな子どもに

- 自分の将来や夢につながるさまざまな事象に対し課題を見だし、課題解決の見通しをもって、進んで地域の人とかかわり、最後まで追究することができる。【主体的・創造的な態度】
- 友達や地域の人と、自分の思いや考えを伝え合い、事実を分類したり関連付けたりしながら、自分の生き方を探るための考えを練り上げることができる。【問題解決にあたっての学び方】
- 地域の人とかかわりの中で、自分の将来や夢についての考えを深めたり、地域のために役立つことができる自分の伸びやよさに気付いたりすることができる。【自己の生き方への自覚】

6. 学習活動計画（計30時間）

段階	問題解決の学習過程	地域との双方向の関係づくりを成立させる支援	配時
受 け る	<p>1. オリエンテーションを行う。④</p> <p>(1) 卒業学年になった今、自分のこだわりや興味をもっていたこと《過去》を振り返り、自分の夢やあこがれ《未来》について考える。</p> <p>(2) 夢の実現に向けて頑張っている地域の人、夢を実現させた地域の人と出会う。[共通体験]</p> <p>(3) 学習の共通課題について話し合い見通しをもつ。</p>	<p>※ 夢の実現に向けて頑張っている人、夢を実現させた人の話を聞く場を設定することで、テーマ『夢』に対してのイメージを明確にすることができるようにする。</p>	1
	<p>課題1 自分の夢の実現に向けて、地域の人の生き方に学ぼう。</p>		2
	<p>2. 自分の課題をつくり、調べる計画を立てる。②</p> <p>(1) 自分の課題を決める。</p> <p>(2) 調べる計画を立てる。</p> <p>○ 自分がかかわる地域の人</p> <p>○ 活動時間・方法</p>		1 1
	<p>3. 自分の課題の解決に取り組む。⑭</p> <p>(1) 計画書に従って調べる。</p> <p>○ 課題追究のために情報の収集・選択・整理</p> <p>○ GTとなる「人」の取材や体験訪問</p> <p>(2) 体験訪問をする[2回]</p> <p>(3) 中間交流会をする。</p> <p>(4) 付加・修正した計画書に従って調べる。</p> <p>(5) 体験訪問をする[2回]</p>		<p>※ 「こんな人（人間）になりたい」を出し合ったウェビングを分析した結果を提示することで、自分にはどんな力や態度が必要か(課題)そのためには誰に学ぶか学習への見通しを明確にすることができるようにする。</p> <p>※ 教師がTT体制により個々にかかわりやすくすることで、子ども一人一人に対して追究計画書へのアドバイスができるようにする。</p>
つ な ぎ の 交 流	<p>4. 活動報告会をする。③</p> <p>(1) 活動報告会の準備をする。</p>	<p>※ G Tとなる「人」の取材をしたり体験訪問をしたりすることで、その人の思いや願い、生き様を感じ取ることができるようにする。</p>	4 1 1
	<p>(2) 活動報告会をする。[2回]</p> <p>課題2 自分の夢の実現に向けて、地域の人に学んだことを生かした取組をしよう。</p>		4
返 す	<p>(2) 活動報告会をする。[2回]</p>	<p>※ 子どもたちが取り組もうとしていること(課題2)が地域にとっても大切な活動であることをGTに伝えていただくことで、子どもたちの有用感を高めることができるようにする。</p>	A組 本時 (3/3)
	<p>5. これからの取組について話し合う。②+課外</p> <p>(1) 自分の夢の実現に向けてのこれからの取組を決める。</p> <p>(2) 課題2の解決に向けて取り組む。</p>	<p>※ 自分で考えた取組を、友達と交流することで、課題2の解決に向けての意欲を高めることができるようにする。</p>	B組 本時 (1/2) 課外 C組 本時 (2/2)
	<p>6. 『夢へのかけ橋発表会』を行う。④</p> <p>(1) 家の人や、GTに対して「これまでの学びの成果」「これからの自分」についてのメッセージを文を書く。</p> <p>(2) 家の人や、GTに対してメッセージを伝える。</p>	<p>※ GTを招聘し、子どもの学びを評価していただくことで、子ども達の有用感を高めることができるようにする。</p> <p>※ 『夢へのかけ橋プラン』を作成することで、これからも課題2で決めた取組(「返す」活動)や地域の人とのかかわりを継続できるようにする。</p>	1 2
	<p>7. 『夢へのかけ橋プラン』を作成する。①+課外</p> <p>8. 活動全体を振り返り、これからの自分の生き方について話し合う。①</p>		1 課外 1

8. 本時の目標

- 自分の学びについて話したり、友達の学びのよさを聞いたりしながら、地域の人に学んだことを生かしていきたいという意欲を高めることができる。 【主体的・創造的な態度】
- 自分の見方・考え方を高め、新たな課題を見いだすことができる。 【自己の生き方への自覚】

9. 本時指導の考え方

本時は、子どもたちがこれまで取り組んできたことを報告することを通して、友達や教師からの評価を受け、有用感・有能感を高める‘活動報告会’〈後半〉の場面である。この‘活動報告会’では、まず友達と一緒に「受ける」段階における学びの過程を振り返ることで、自己の成長に気付くことをねらっている。さらに、これまでの夢の実現に向けた取組への賞賛・価値付けを受けることで、夢の実現に対する見方・考え方を高めることができると考える。つまり、新たな自分の課題を見出したり、「返す」段階における新たな課題（課題2）追究への意欲を高めたりすることもねらっている。

そこで、本時では、子ども一人一人の取組の成果がお互い認め合えるように、話す側には、自分の取組が具体的に伝わるような自己評価カードを準備させておく。聞く側には、示した視点（①友達の学びのよさ、②これからの自分に生かせそうなこと）のもと、友達の発表を聞くようにさせる。

最後に、最後のG Tとの協働体験を終えた後に書いた子ども（自分の課題がまだ解決できていないのでは、と不安を感じている子どもや既に課題2を意識している子ども）の自己評価カードを紹介する。このことで、前時から本時の報告会にかけて、「これから自分がしなければならないこと（地域の人に学んだことを生かす活動）」への意識が高まってきた子どもたちが、「今の時点で、自分の夢の実現のために必要な力や態度が本当に身に付いたかどうかは判断できない。学校や地域の様々な場面で‘身に付いた力’を生かすことができれば、本当に力が身に付いたと言える。」という、これまでの見方・考え方を高めることができるようにする。

つまり、「受ける」段階の最後の時間である本時は、「返す」段階に向かって課題意識をもつ、つなぎ目としての役割をもった時間である。

そこで、本時学習の指導における目標達成のための主な支援は、以下の4点である。

- ① 発表を聞く際には、視点（①友達の学びのよさ、②これからの自分に生かせそうなこと）を示すことで、友達の学びを自分の考えに照らし合わせて聞き、友達の学びの内容を共有化することができるようにする。
- ② かかわったG Tや課題、取組の異なる友達3～4人で構成したグループで報告し合うことで、友達一人一人に適切な評価ができるようにする。
- ③ 友達の発表を聞いた後に、自己評価カード（地域の人に学んだことを進んで友達に報告したり、質問したりすることができたか、自分の伸びや自分や友達の学びのよさに気付くことができたか、これからの自分に生かせそうなことを見つけることができたか、の3項目）を書かせることで、自分の活動を振り返り、有用感・有能感を実感することができるようにする。
- ④ 自己評価カードの内容や感想を発表する中で、これからの自分に生かせそうなことを具体的に考えることができた子どもを紹介することで、課題2を意識することができるようにする。

10. 準備

（教師）前時までの学習を整理した掲示物、聞く側の視点を示した掲示物

（子ども）発表に使用する自己評価カード、筆記用具

11. 展開

学習活動と内容	評価規準	支援																		
<p>1. 前時までの学習を想起し、本時の学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>本時のめあて 地域の人に学んだことを報告しよう。</p> </div> <p>2. 活動報告会を行う。 (1) 聞く視点を確認する。 (2) 地域の人に学んだことを報告し合う。 《聞く視点》</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>① 友達の学びのよさ ② これからの自分に生かせそうなこと</p> </div> <p>3. 本時を振り返り、自己評価カードを書く。 <input type="checkbox"/> 地域の人に学んだことを友達に話すことができたか。 <input type="checkbox"/> 友達の学びのよさを見つけることができたか。 <input type="checkbox"/> これからの自分に生かせそうなことを見つけることができたか。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">お世話になった先生</th> <th style="width: 50%;">学んだこと</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>G T (公民館館長)</td> <td>心配り, 心配り</td> </tr> <tr> <td>G T (公民館主事)</td> <td>笑顔, 思いやりの心</td> </tr> <tr> <td>G T (A保育園)</td> <td>笑顔, 気持ちのよい挨拶</td> </tr> <tr> <td>G T (陶芸家)</td> <td>感謝する心, 努力</td> </tr> <tr> <td>G T (Bスーパー)</td> <td>責任感, 丁寧な言葉遣い</td> </tr> <tr> <td>G T (C保育園)</td> <td>笑顔, 思いやりの心</td> </tr> <tr> <td>G T (着付けサークル教師)</td> <td>礼儀正しさ, 前向き</td> </tr> <tr> <td>G T (野菜づくりの名人)</td> <td>笑顔, やさしさ</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. 課題2を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>課題2 自分の夢の実現に向けて、地域の人に学んだことを生かす活動をしよう。</p> </div> <p>5. 教師の話聞く。 <input type="checkbox"/> 子どもの学習への価値付け・賞賛 <input type="checkbox"/> 次時の学習の確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>今日は、これまでみなさんが地域の方に学んだことを報告してもらいましたね。友達の報告を聞いて、友達がどんなことを学んだのか、その学びのよさもたくさん見つけることができました。(賞賛)もちろん地域の方のおかげでもあります。あなたたちが「自分の夢を実現させたい!」という思いから一生懸命に活動したことで、地域の方からたくさん学ぶことができたのだと思いますよ。(価値付け) これからは、さらに自分の夢の実現に向けて、課題2の解決の仕方を考えていきましょうね。(次時の学習の確認)</p> </div>	お世話になった先生	学んだこと	G T (公民館館長)	心配り, 心配り	G T (公民館主事)	笑顔, 思いやりの心	G T (A保育園)	笑顔, 気持ちのよい挨拶	G T (陶芸家)	感謝する心, 努力	G T (Bスーパー)	責任感, 丁寧な言葉遣い	G T (C保育園)	笑顔, 思いやりの心	G T (着付けサークル教師)	礼儀正しさ, 前向き	G T (野菜づくりの名人)	笑顔, やさしさ	<p>【観点】 主体的・創造的な態度</p> <p>【評価規準】 <input type="checkbox"/> 地域の人に学んだことを話したり、友達が学んだことや学び方のよさを聞いたりしながら、地域の人に学んだことを生かしたいという意欲を高めている。</p> <p>【評価方法】 発言・表情 活動記録カード</p> <p>【観点】 自己の生き方への自覚</p> <p>【評価規準】 <input type="checkbox"/> 地域の人から学んだことを、これからの生活の中で生かす活動に取り組もうという新たな課題[課題2]を意識している。</p> <p>【評価方法】 発言・表情 自己評価カード</p>	<p>○ 前時までに学習した内容を掲示しておくことで、前時までの学習を想起しやすいようにする。</p> <p>○ 友達の発表を聞いた後に、自己評価カード(①地域の人に学んだことを友達に報告することができたか《話し手》, ②友達の学びのよさを見つけることができたか《聞き手》, ③これからの自分に生かせそうなことを見つけることができたか、3項目)を書かせることで、自分の活動を振り返り、有用感・有能感を実感することができるようにする。</p> <p>○ 友だちの話から、自分の思いを整理させることで、新たな課題への意識を高めることができるようにする。</p>
お世話になった先生	学んだこと																			
G T (公民館館長)	心配り, 心配り																			
G T (公民館主事)	笑顔, 思いやりの心																			
G T (A保育園)	笑顔, 気持ちのよい挨拶																			
G T (陶芸家)	感謝する心, 努力																			
G T (Bスーパー)	責任感, 丁寧な言葉遣い																			
G T (C保育園)	笑顔, 思いやりの心																			
G T (着付けサークル教師)	礼儀正しさ, 前向き																			
G T (野菜づくりの名人)	笑顔, やさしさ																			

8. 本時の目標

- 自分の『夢』の実現に向けて、地域の方から学んだことを生かした自分の取組を決めることができる。
【自己の生き方への自覚】
- 自分が考えた取組を、地域の方から学んだことと関連付けて友達に話したり、友達のこれからの取組を聞き、感想や意見を発表したりすることができる。
【問題解決にあたっての学び方】

9. 本時指導の考え方

これまでに子どもたちは、活動報告会を通して、課題1における自分の学びのよさを自覚するとともに、夢の実現のための新たな課題2を設定してきている。

また前時においては、地域の方から学んだことを生かす活動について、さまざまな考えを出す学習を行っている。子どもによっては、地域の方から学んだことと関連付けて、具体的な活動内容を考えている子もいるが、その一方で、まだ活動が具体化されていなかったり、どのように取り組んでいくか迷ったりしている子もいる。

そこで本時は、友達が考えた取組を聞いたり、自分が考えた取組に対する友達の意見を参考にしたりしながら、自分の取組を決める学習場面である。

そのために、まず、前時に出し合った活動の案をもとに、「①いつ・②どこで・③どのように」の3点から方法を考えることで、自分の課題解決を具体的にイメージすることができるようにする。

次に、一人一人が考えたこれからの取組について、グループで交流する場面を設定する。地域の方から学んだことを生かした、具体的な取組を決めることができるように、交流の中では、発表する側と聞く側それぞれに、視点をもたせて発表したり、聞いたりさせる。

その後、活動計画書と自己評価カードに、これからの自分はどうなことに取り組むか、友達の取組や意見を聞いてどう思ったかについて書かせる。このことで、子どもたちは、具体的な取組を決めることができた有能感を味わったり、友達の取組に対する感想や意見を言えた有用感を味わったりできると考える。

そこで、本時学習の指導における目標達成のための主な支援は、以下の5点である。

- ① 前時の学習を整理した掲示物を提示することで、課題解決を具体化する視点を見つけられるようにする。
- ② 自分の『夢』の実現に向けて、地域の方から学んだことを生かした具体的な取組を決めることができるように、友達のこれからの取組や、自分が考えた取組に対する友達の意見を参考にすることができるような交流の場を設定する。
- ③ 交流がより深まるように、共通体験した友達3～4人で交流するグループを構成するようにする。
- ④ グループで交流する場面においては、課題解決に向けた深まりのある話し合いができるように、発表する側は、2つの視点（①自分の取組を、地域の方から学んだこととつないで話す。②「いつ・どこで・どのように」取り組むか話す。）をもとに話すようにし、聞く側は、3つの視点（①地域の方から学んだこととつないだ取組になっているか。②「いつ・どこで・どのように」が分かる取組になっているか。③自分だったらどんな取組を考えるか。）をもとに聞くようにする。
- ⑤ 交流後に、活動計画書や自己評価カードを書かせることで、具体的な取組を決めることができた有能感を味わったり、友達の取組に対する感想や意見を言えた有用感を味わったりできるようにする。

10. 準備

(教師) 前時までの学習を整理した掲示物、発表する視点・聞く視点を示した掲示物

(子ども) 活動計画書、自己評価カード

11. 展開

学習活動と内容	評価規準	支援
<p>1. 前時学習を想起し、本時学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>本時のめあて 友達の取組や意見を参考にしながら、自分の取組を決めよう。</p> </div> <p>2. 自分の取組を具体化して考える。 ○ 地域の方から学んだこととつないだ取組 ○ 「いつ・どこで・どのように」取り組むか。</p> <p>3. これからの取組についてグループで聞き合う。 ○ 自分の取組を発表する。 ○ 友達の取組を聞いて、質問や意見、感想を言う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>《発表する視点》</p> <p>① 自分の取組を、地域の方から学んだこととつないでいるか。 ② 「いつ・どこで・どのように」取り組むか。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>《聞く視点》</p> <p>① 地域の方から学んだこととつないだ取組になっているか。 ② 「いつ・どこで・どのように」が分かる取組になっているか。 ③ 自分だったらどんな取組を考えるか。</p> </div> <p>4. 自分の取組を活動計画書に書く。</p> <p>5. 自己評価カードを書く。 ○ 「いつ・どこで・どのように」取り組むか決めることができたか。 ○ 友達の取組や意見を聞いてどう思ったか。 ○ 友達の取組に対して、感想や意見を言うことができたか。</p> <p>6. 教師の話聞く。 ○ 子どもの学習への価値付け・賞賛 ○ 次時の学習の確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>今日は、自分の取組を決めるために、友達とお互いに感想や意見を出し合いましたね。友達の取組や意見を参考にしながら、これからの取組を決めることができたと思います。(賞賛) 今日決めた取組を行っていくことは、一人一人の夢の実現に近づいていくものだと思います。(価値付け) 早速明日から、自分が決めた取組を行動に移していきましょう。そして、取り組んでみてどうだったか振り返る学習をしていきましょう。(次時の学習の確認)</p> </div>	<p>【観点】 問題解決にあたっての学び方</p> <p>【評価規準】 ○ 友達のこれからの取組を聞き、感想や意見を言うことができる。</p> <p>【評価方法】 発言、自己評価カード</p> <p>【観点】 自己の生き方への自覚</p> <p>【評価規準】 ○ 地域の方から学んだことを生かした、自分の取組を見出すことができる。</p> <p>【評価方法】 発言、活動計画書、自己評価カード</p>	<p>○ 前時の学習を整理した掲示物を提示することで、課題解決を具体化するには、「いつ・どこで・どのように」という視点が必要だと気づくようにする。</p> <p>○ 発表する側と聞く側それぞれに、視点をもたせて発表したり、聞いたりすることで課題解決に向けた深まりのある話し合いができるようにする。</p> <p>○ 活動計画書や自己評価カードを書かせることで、具体的な取組を決めることができた有能感を味わったり、友達の取組に対する感想や意見を言えた有能感を味わったりできるようにする。</p>

8. 本時の目標

- 「返す」段階において、考えた今後の取組と地域の人から学んだことを関連づけることができる。
【問題解決にあたっての学び方】

9. 本時指導の考え方

これまでに子どもたちは、活動報告会を通して、課題1における自分の学びのよさを自覚するとともに、夢の実現のための新たな課題2「自分の夢の実現に向けて、地域の人に学んだことを生かした取組をしよう。」を設定している。

本時は、その課題2の解決に向けてどんな取組をしていけばいいのかを考え、返す段階での活動の見通しをもつ学習場面である。

この学習場面では、自分の夢の実現に向けて、地域の人から学んだことと関連づけながら、今後の取組について考えることで、「返す」段階での活動の見通しをもつことができることをねらっている。また、地域の人から学んだことを生かした取組の案を出し合い、今後の活動を具体的にイメージし、次時には、個人の取組を決めることができるようになることを考える。

そこで、本時学習の指導における目標達成のための主な支援は、以下の3点である。

- ① 前時までの学習を整理した掲示物を使って、地域の人から学んだことを常に振り返らせることにより、地域の人から学んだことと関連づけた取組を考えることができるようにする。
- ② グループを4～5人に設定し、聞き合いの時間を十分に保証することで、一人一人の子どもが主体的に活動できるようにする。
- ③ 本時を振り返って、感想を発表し合ったり、自己評価カード(①友だちの考えのよさを見つけることができたか。②地域の人から学んだこととつなげて、取組を考えることができたか。③自分の今後の取組に生かせそうなことを見つけることができたか。3項目)を書いたりすることで、自分の活動を振り返り、有用感・有能感を実感することができるようにする。

10. 準備

(教師) 前時までの学習を整理した掲示物

(子ども) 自己評価カード、考えた取組を書くカード、カードをまとめる模造紙

11. 展開

学習活動と内容	評価規準	支援
<p>1. 前時学習を想起し、本時学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>本時のめあて これからの取組について、意見を出し合おう。</p> </div> <p>2. これからの取組について話し合う。 (1) これからの取組について、グループで意見を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 考えた取組をカードに書く。 ○ 書いたカードを模造紙にまとめながら貼る。 <p>(2) カードを貼った模造紙を黒板に掲示する。</p> <p>(3) 他のグループで考えた取組を見合って、全体で話し合う。</p> <p>3. 本時を振り返り、自己評価カードを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 友だちの取組のよさを見つけることができたか。 ○ 地域の人から学んだこととつないで、取り組む活動を考えることができたか。 ○ 自分の今後の取組に生かせそうなことを見つけることができたか。 <p>4. 教師の話聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの学習への価値付け・賞賛 ○ 次時の学習の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>今日の学習では、自分の夢に向かってこれから何をしたらいいのか、一生懸命に話し合うことができました。(賞賛) 今後の取組に、地域の人から学んだことを生かし、さらに自分の力を伸ばしていくことが夢への実現に向けて、大切なことだと思います(価値付け) 次の時間は、今日出た意見を参考に、個人の取組を決めて、具体的に計画を立てていきましょう。(次時の学習の確認)</p> </div>	<p>【観点】 問題解決にあたっての学び方</p> <p>【評価規準】 ○ 考えた今後の取組と地域の人から学んだこととの関連を説明することができる。</p> <p>【評価方法】 発言・自己評価カード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時間での学習を整理した掲示物を使って、地域の人から学んだことを常に振り返られるようにすることで、地域の人から学んだことと関連づけた取組を考えることができるようにする。 ○ 考えた取組を書いたカードを模造紙に貼り、黒板に掲示することで、グループで出し合った意見を全体で分類整理しやすくするようにする。 ○ 本時を振り返りを感想を発表し合ったり、自己評価カード(①友だちの考えのよさを見つけることができたか。②地域の人から学んだこととつなげて、取組を考えることができたか。③自分の今後の取組に生かせそうなことを見つけることができたか。3項目)を書いたりすることで、自分の活動を振り返り、有用感・有能感を実感することができるようにする。